

SKY DOG[®] SPORT

vol.29



第25回 GRAND CHAMPIONSHIP JAPAN FINAL 2018 in 兵庫但馬

九州勢が
公式種目を
完全制覇!

グランドチャンピオンシップ
一柳 浩一 & デトネ

レディースチャンピオンシップ
間 美加 & Gold

スモールドッグチャンピオンシップ
川口 輝 & JAKE



JAPAN FINAL 2018

in 兵庫但馬

10月20日(土)・21日(日)



主催 日本フリスビードッグ協会
会場 兵庫県立 但馬ドーム

後援
協力
協賛
特別協賛

豊岡市／豊岡市教育委員会／日高神鍋観光協会
川口運動公園管理グループ
株式会社 レシアン／限会社 谷尾興産／株式会社 一榮商會／アース・ペット株式会社
農業生産法人 有限会社あした／アップかなべ／株式会社 新潟ふるさと村／株式会社 アースウィング
株式会社 ガンビー／KAN-ICHI／かどや食堂



JF2018 REPORT

日本フリスビードッグ協会設立 25 周年となった、『ジャパンファイナル 2018 in 兵庫但馬』。本年度最終章となる、フリスビードッグ日本一を決定する、決戦の場は、ジャパンファイナル初めての開催地となる、兵庫県立但馬ドーム。ファイナルメイン看板には、兵庫県豊岡市のマスコットキャラクター、玄武岩の玄さんが描かれ、ノミネート選手の緊張感を、少し緩めてくれる存在になったでしょうか？



DAY-0 10月19日(金)

■ 記念大会・最終選考会（1日目）

今年の記念大会第1日目は、暗い中で、照明を利用して行われました。

1日目のコンディションは、無風でしたが雨が降りました。どのチームも雨が降っていたとしても、いつも良いポイントを出してくるのですが、慣れていない照明灯の下ということもあって、フリスビーディスクを見失うという場面が多く見受けられ、なかなか苦戦を強いられている第1ラウンドでした。

第2ラウンドでは、気温も低くなりプレーヤーの体温も奪われ思うようにフリスビーディスクをコントロールすることが難しくなり、コートアウトしてしまうチームも多く見られ、第2ラウンドも苦戦を強いられるラウンドとなってしまいました。

そんな、プレーヤーたちを苦しめる環境の中で優勝に輝きましたのは、一柳浩一&くろべえ（ミックス）チームでした！

なお、2位は岡山伸一&Emma（ボーダーコリー）チーム、3位は佐藤克行&NEAL（ボーダーコリー）チームでした！以上の結果で記念大会1日目は終了いたしました。



DAY-1 10月20日(土)

10/20（土）ジャパンファイナル第1日目。昨晚からの雨も、開会式を迎える頃にはやみ、曇りのち晴れの天候状況。風速は、弱風時々やや強風。横風時々追い向かいが入る状況。過去のジャパンファイナルと比較すると、



好条件に入るフリスビードッグ日和と言えるでしょう。ノミネート選手入場をする各チームの笑顔とヤル気満々の勇姿が、とても印象的でした。チャンピオンカップ返還から始まり、2018 年度シニアドッグの部年間チャンピオン、伊原明良選手による選手宣誓。開会式が滞りなく終わり、ジャパンファイナル 2018 が開幕しました。

■ フリーフライトD-1MAXチャンピオンシップ

華麗さとダイナミックな演技で魅了するフリーフライト D-1MAX。プレイスタイルの違いやチームカラーも見どころの一つです。ジャパンファイナル初ノミネートを受けたチームも交えての競い合いです。

チームとしては、一番のベテランチームである、8 年連続出場の新津芳博 & Wild Leo チームからスタート。スピーディーでトリックのテンポが早いチーム。ダブルノミネートとなった、グリスン ベルとのチームとも、素晴らしいコンビ

ネーションを見せてくれる。前年度チャンピオン ZORRA を率いるチーム澤は、まず NELA とのチームで出場し、速いトスワークで魅せる演技を繰り出します。ラブラドルでダイナミックな演技



を見せる平山聖子&レディー・ガガチーム。オーストラリアンシェパードの軽やかな特性を発揮させる、石井勝久&ブレイクチーム。初ノミネートで、素晴らしい演技力を魅せる松本恭子&Kai チームと続き、ベテラン間美加&Durandal チームの登場。優勝戦線に必ず絡んでくるチームが、スピーディーな連続技を見せながら、難易度の高いトリックを繰り出していきます。最終チームは前年度チャンピオン、ハイスピードな絶え間ない演技を繰り出す澤幹子&ZORRA チーム。

ファーストステージ、そしてセカンドステージをクリアした各チームの結果は、間美加&Durandal チームとは僅差で、澤幹子&ZORRA チームが優勝。2018 年度に引き続き 2 連覇を飾りました。

澤選手は、2006 年度からジャパンファイナルに出場、2009・2010 年度は、綺羅とのコンビで日本一となり、2011・2012 年度そして 2014・2015・2016 年度は、AILA とのコンビ



で日本一を達成しており、今回の優勝で、フリースタイル D-1MAX チャンピオンシップ 9 回の日本一に輝いた選手です。

■ ユースオールカマー選手権の部

個人戦は 34 チームのエントリーの下に開催されました。まず、予選第 1 ラウンドでは 26 ポイントを獲得した 3 チームがトップに並び、続いて 25 ポイントの 1 チーム、22 ポイントの 1 チーム、そして 21 ポイントを獲得した 1 チームが続き、予選第 1 ラウンドを終了して僅



差の大激戦となりました。続く予選第 2 ラウンドでは予選第 1 ラウンドと比して高ポイントを獲得するチームが続出して予選ラウンドを終了しましたが、予選各ラウンドのトップのポイントを獲得した河野和則（大阪府）&SAM（ボーダーコリー）チームが合計 57 ポイントを獲得して予選ラウンドトップとなり、続いて予選第 2 位が合計 50 ポイントの獲得で高橋真衣子（広島県）&PJ（ボーダーコリー）チーム、予選第

3 位が合計 49 ポイントの獲得で三國文昭（北海道）&ニコル（ボーダーコリー）チーム、予選第 4 位が合計 48 ポイントの獲得で木田和夏（大阪府）&molto Vivo（ボーダーコリー）チーム、そして予選第 5 位が合計 44 ポイントの獲得で山下佳秀（大阪府）&三男坊リボン（E ポインター）チームとなり、以上 5 チームが決勝ラウンド進出となりました。

そして、上位 5 チームによる決勝ラウンドの結果、決勝ラウンドにおいても 5 チーム中トップの 27 ポイントを獲得し、合計 84 ポイントを獲得した河野和則&SAM チームが第 1 位となり、第 2 位には合計 72 ポイントの獲得した高橋真衣子&PJ チーム、第 3 位には合計 67 ポイントの獲得した三國文昭&ニコルチームが入り、各ラウンドともトップのポイントを獲得した河野和則&SAM チームが安定した各ラウンドで優勝を飾りました。



また、団体戦では第 5 リージョンの河野和則&SAM、木田和夏（大阪府）&molto Vivo、山下佳秀&三男坊リボンのチームが優勝を飾りました。



以上の結果、ユースオールカマー日本一決定戦では、河野和則&SAM チームが個人戦及び団体戦で見事ダブル優勝を飾りました。

■ シニアドッグの部



シニアドッグの部チャンピオン決定戦は 21 チームのエントリーの下に開催されました。まず、予選第 1 ラウンドでは高得点の 30 ポイントを獲得した 1 チームがトップとなり、続いて 22 ポイントの 1 チーム、20 ポ

イントの 1 チーム、そして 10 ポイント台を獲得したチームが続き、30 ポイントを獲得した 1 チームが抜け出して予選第 1 ラウンドを終了しました。続く予選第 2 ラウンドでは予選第 1 ラウンドと比して各チームの獲得ポイントが伸び悩みましたが、予選各ラウンドともトップのポイントを獲得した片岡裕貴（香川県）&HIRO（ボーダーコリー）チームが合計 54 ポイントを獲得して予選ラウンドのトップとなり、続いて予選第 2 位が合計 38 ポイントの獲得で田口京介（福岡県）&フレイア（ボーダーコリー）チーム、予選第 3 位が合計 36 ポイントの獲得で伊原明良（千葉県）&GIAN（ボーダーコリー）チーム、予選第 4 位が合計 35 ポイントの獲得で上野平寛（佐賀県）&華蓮（ボーダーコリー）チーム、そして予選第 5 位には合計 34 ポイントの獲得で畑中松雄（三重県）&シューター（ボーダーコリー）チームが入り、以上 5 チームが決勝ラウンド進出となりました。

そして、上位 5 チームによる決勝ラウンドの結果、予選各ラウンドともトップのポイントを獲得した片岡裕貴&HIRO チームが決勝ラウンドにおいても 5 チーム中トップのポイントを獲得し、合計 84 ポイントを獲得して優勝を飾り、続いて合計 59 ポイントを獲得した上野平寛&華蓮チームが予選ラウンドの第 4 位から順位を上げて第 2 位に入り、第 3 位が合計 50 ポイントを獲得した田口京介&フレイアチームとなりました。

シニアドッグの部チャンピオン決定戦では、各ラウンドともトップのポイントを獲得した片岡裕貴&HIRO チームが第 2 位以下に 25 ポイントの大差をつけて圧勝という結果で優勝を飾りました。



■ ペアの部

ペアの部は、家族でペアを結成するチーム、友達でペアを結成するチームなど、今年も様々なチームが出場されました。

様々なチームが出場されているだけに、微笑ましい場面がありながらも、コートの中では真剣勝負が繰り広げられていて、独特な緊張感のある場となりました。

天候は晴れていましたが、風向きが頻繁に変わるプレーヤーの方々に苦しめるような風が吹いていました。

そのような中での予選第 1 ラウンドは、風の影響があり思

うようなスローイングができずコートアウトしてしまうチームや、愛犬のキャッチミスが目立つチームが多く見受けられました。

第 2 ラウンドでは、コートアウトより、コート内での愛犬のキャッチミスが結構あり、1 ラウンド、2 ラウンド共に風がよくイタズラをしてしまうラウンドとなってしまいました。

そのような出場チームを苦しめる風が吹く状況の中で、決勝進出を決めたのは、鎌瀬美江子・田口京介&イリス（ボーダーコリー）チーム（44 ポイント）、松野下裕子・岡山伸一&Emma（ボーダーコリー）チーム（42 ポイント）杉田春美、西村久志&Rock（ボーダーコリー）チーム（38 ポイント）でした。

以上の 3 チームで行われました決勝ラウンド。

ポイントの差はそこまでなく、1 投のミスが大きく影響してしまうというプレッシャーとも戦いながら、3 チームとも息の合ったコンビネーションを見せ高ポイントを次々と出してくる中で今年度、ペアの部チャンピオンに輝きましたのは、松野下裕子・岡山伸一&Emma チームでした！！



■ 記念大会

記念大会 2 日目は、雨は降りませんでしたが、暗くなるにつれてだんだんと冷え込んできまして、1 日目より寒さを感じるような天候でした。

暗くなってきて、1 日目同様、照明灯の下でのゲームとなりました。

照明を利用したゲームになるとやはり、フリスビーディスクを見失うチームが多く見受けられました。その中、予選 1 ラウンドをトップで通過したのは、迫田さやか&Ratnaraj（ボーダーコリー）チームでした！！

2 ラウンドでは、どのチームも寒さに慣れてきまして普段通りのプレイにもどり、確実に安定してポイントを出してきました。そのために、1 ラウンドで良いポイントを出していたチームも最後まで油断は絶対にできない状況となり、プレーヤーの皆さんにプレッシャーが重くのしかかる環境となりました。

その中、2 日目の記念大会を優勝いたしましたのは、第 2 ラウンドで 5 回投げたうち、4 回 10 ポイントエリアでキャッチ成功、そして 5 回ともキャッチ成功のパーフェクトキャッチをいたしました、一柳浩一&デトネ（ボーダーコリー）チームで 2 日目の記念大会は終了いたしました！！！！

**DAY-2****10月21日(日)**

10/21(日) 安定した気圧配置で、全国的に秋晴れを迎えたジャパンファイナル第2日目。昨日に引き続き、弱風時々やや強風。グランドチャンピオンシップは、荒れるというジクスの覆すような高コンディションとなりました。開会式では、チャンピオンカップの返還や、2018度の新人賞受賞の迫田さやか&Ratnaraj チームと、MIP (Most Improved Player) 受賞の磯上淳子&すずチーム、そして一撃伝説賞受賞の一柳浩一&デトネチームの表彰が執り行われ、いよいよジャパンファイナル最終日、フリスビードッグ日本一決定戦の始まりです。



■ グランドチャンピオンシップ



65 チームのノミネートチームが、グランドチャンピオンの座を巡って、熱い戦いを繰り広げます。ファーストラウンドでポイントを増やし、優位な展開に持ち込もうとしたところだが、穏やかな状況ながらも、序盤のチームは 20 ポイント台でスタート。

中盤で高ポイントが続いて出されるも、ベスト 10 に入り再びポイント伸びず。ファーストラウンドポイントリーダーは、吉武竜司&mira チームの 40 ポイント。ついで 38 ポイントの湯本智&ルディ・エクレールチーム。以下、36 ポイントが 2 チーム。30 ポイントオーバー総勢 15 チームが、優勢なポジション取りをし、セカンドラウンドへ駒を進めるといった状況。



しかしながら、ファーストラウンド 26 ポイントからセカンドラウンド 38 ポイントを出して追従してきたのが、木田和夏&Little Navajo チーム。予選終了段階で決勝ボーダーラインを形成する、トータル 64 ポイントで決勝進出。数々の特別賞を受賞し、今期注目株の一柳浩一&デトネチームは、ファーストラウンド 34 ポイントにセカンドラウンド 43 ポイントを追加し、堂々のトップ通過を遂げ、日本一に王手をかける。ファーストラウンド 40 ポイントを持つ吉武竜司&mira チームは、やや失速するもトップと 5 ポイント差で予選 2 位につける。以下、30 ポイントオーバー集団から、セカンドラウンドで挽回した、宮迫裕二&BROOKS チームが第 3 位通過。予選 2 ラウンドを 34 ポイントで並べ、確実にポイントを取った実力チーム、三本欽麗&Pallas Athena チームが第 4 位通過。ファーストラウンド 2 位につけていた湯本智&ルディ・エクレールチームは、ワンミスが入り予選 5 位通過となった。そして、唯一ラブラドルレトリバーで、スピード感あるプレイが持ち前の川野辺正&七海チームが、予選トータル 65 ポイントで 6 位通過となった。

最後まで、何が起るかかわからないのがグランドチャンピオンシップ。しかし、今年の天候は絶好の条件。あとは、プレッシャーを跳ね除ける精神力の勝負となる決勝ラウンド。一つ頭を出したのが、高いスローイングスキルの持ち主、三本欽麗&Pallas Athena チームが、決勝ラウンド最高ポイント 36 ポイントを出し、トータル 104 ポイントで上位陣にプレッシャーをかけるが、トップ通過との予選ポイント 9 ポイントの差は埋まるのか？結果、予選 2 位の吉武竜司&mira チームは、痛恨のコースアウトが 2 つ入り、第 3 位に甘んじる。そして、トップ通過の一柳浩一&デトネチームは、27 ポイントを出せば勝ち上がりというシーン。1 頭目ロングエリアを捉えるが、2 頭目にコースアウト。勝敗がわからなくなったと思われたが、3 頭目にフルマーク 10 ポイントを入れ、残り 2 投をロングエリアで締めくくり、決勝ラウンド 34 ポイント追加、トータル 111 ポイントで見事に優勝。フリスビードッグ日本一の座、グランドチャンピオンを勝ち取りました。



■ レディースチャンピオンシップ



新人賞と MIP 共にレディースチームから受賞者を出すという、レディース黄金期とも言える 2018 年度。年間ランキングトップであり、新人賞受賞の迫田さやか&Ratnaraj チーム。そして年間ランキングは第 2 位、MIP 受賞の磯上淳子&すずチームに注目が注がれるレディースチャンピオンシップ日本一決定戦。43 チームの中からレディースフリスビードッグ日本一が決定する一戦です。

ファーストラウンドで突出するチームが出るかと思われたが、ポイントリーダーは 28 ポイントで、レギュラーシーズン中に、強豪揃いのワンラウンドマッチゲーム 2 戦を制した田澤恵理&グータンチーム。そして、新人賞の迫田さやか&Ratnaraj チームの 2 チーム。20 ポイント後半には僅かに 3 チームとなり、決勝ラウンド進出 7 チームの行方は全くわからず、セカンドラウンド成り行き次第となりました。

セカンドラウンド、ファーストラウンドポイントリーダー 2 チームは、田澤恵理&グータンチームが 30 ポイントを追加し予選トップで決勝進出。迫田さやか&Ratnaraj チームは、ワンミス 24 ポイントを追加し、第 3 位通過で決勝進出。ここに割って入ったのが、セカンドラウンド 30 ポイントオーバーを出した九州の強豪、間美加&Gold チームが第 2 位通過。そして間美加&Durandal チームも第 4 位通過で追従。第 5 位通過には、強豪九州レディース軍団の一角、宮迫由美&Prizma チーム。第 6 位通過には、最後までランキングトップ 3 争いを



した小松崎優美&ミアチーム。第 7 位にはベテラン、7 回目のジャパンファイナル出場となる泉澤順子&華蓮チーム。

予選トップから第 7 位のポイント差は 14 ポイントあるが、上位を狙うチャンスは十分にある決勝ラウンド。しかし、パーフェクトプレイはマストになる。まず、優位なポイントを作り出したのが、間美加&Deep Sky チーム。トータルポイント 78 ポイントで、後続の結果を待つ。その後、このポイントにピッタリと付けてきたのが、迫田さやか&Ratnaraj チーム。しかし、上位ポイントを動かしたのが、80 ポイントをマークした間美加&Gold チーム。予選トップ田澤恵理&グータンチームを迎え、ビハインドは 22 ポイント。23 ポイント以上を出せば優勝となる。レディースゴーの合図がかかり、第 4 投目までは 6-4-6-4 と順調にポイントを追加する。誰もが、勝利を確信していたラスト投であったが…。

最後まで何が起こるかかわからない、人犬一体のフリスビードッグ。2018 年度レディースチャンピオンに輝いたのは、間美加&Gold チームでした！



2018年度シリーズを支えてくださったみなさま

V.I.P.
Very Important Pet B.V.

BLACKWOOD
SLOW COOKED PET NUTRITION

株式会社 レシアン

■ スモールドッグチャンピオンシップ

新旧入り混じりが最も多かった、スモールドッグチャンピオンシップ。33チームのノミネートチームの中から、スモールドッグ日本一が決まります。2年連続年間ランキングトップの佐藤一弥&ライリーチームが、強豪チームがいる中で、今期こそチャンピオンカップを手にすることが出来るのか？



緊張の中始まったファーストラウンドは、各チームポイントを積み上げるも、20ポイントオーバーしたのは僅かに2チーム。2014～2015年度にLUKEとのコンビでスモールドッグチャンピオンに輝いた上川成年選手が、今季初ファイナル出場を飾ったLUCYとのチームで22ポイント。2016年度スモールドッグチャンピオン鎌田義明&リッツチームが21ポイントでややリードを図る。しかしながら、10ポイント台が団子状態で連なりセカンドラウンドへ進む。



僅かな天候コンディション違いが、スモールドッグにとっては影響度が高く、微妙なコンビネーションが求められる。予選2ラウンドを平均的に揃えることが出来るかが、勝敗の決め手となる。決

勝ラウンド5枠を勝ち取るために、各チームセカンドラウンドに勝負をかけるが、このラウンドでも20ポイントオーバーしたのは2チーム。共に初のファイナルノミネートを受けたチーム。スモールドッグエリート集団九州から、川口輝&JAKEチームが、22ポイントを取り、トータル38ポイントで予選トップ通過。そして、スモールドッグの歴史を紐解くと、この選手の実績は忘れることは出来ない、ルナとのコンビで、スモールドッグチャンピオンシップ初代チャンピオン、上田昌二選手&Arionチーム。しかし、上田昌二&Arionチームは、ファーストラウンドの3ミスが響き、予選敗退となってしまう。スモールドッグチャンピオン上川成年選手が、LUCY

とのチームでトップタイの38ポイント予選第2位、LUKEとのチームで37ポイント、予選第3位と高ポジションにつける。ここにポイントを並べて第4位通過は、2016スモールドッグチャンピオン鎌田義明&リッツチーム、そして第5位通過に滑り込んできたのが、34ポイントでニューカマー河野洋志&マリチーム。

決勝ラウンド進出チーム、トープから5位までの差は、僅かに4ポイント差で決勝ラウンドに突入。予選の状況から、決勝で20ポイント台をマークするのが必須という場面で、トップで入ってきた河野洋志&マリチームが22ポイントを取り、トータル56ポイントと大きくリードし、後続にプレッシャーを与えた。その後、上川成年&LUKEチーム18ポイントトルも僅かに1ポイント及ばず。そしてトップ通過川口輝&JAKEチームチームの登場。ここまで予選第5位の河野洋志&マリチームの56ポイントが勝敗の分かれ目となる。アドバンテージは18ポイント。19ポイント以上で勝ち上がりという、決して低いハードルではないポイント差。



1投目ロングエリアランニングキャッチから始まり、2投目もロングエリアジャンプがつく。既に15ポイント獲得という場面で、最終スローはミドル6エリアへ。このフリスビーをJAKEがジャンプキャッチ！2018年度スモールドッグチャンピオンは、初ノミネートで見事優勝、川口輝&JAKEチームに栄冠が輝きました。



2018年度シリーズを支えてくださったみなさま



アース・ペット株式会社



2018 SERIES CHAMPION



SERIESCHAMPION

2018年度シリーズチャンピオン

島本圭梧 & Lark

2年連続で年間チャンピオンになることができましたが、今シーズンを振り返ると不甲斐ない結果だったと反省しています。

後半に崩れて悔しい思いをした昨シーズンを反省し、コンスタントにポイントが取れるようにと心がけましたが見事に崩れてしまい、今シーズンも前半の貯金で年間チャンピオンになることができました。僕にとって、今シーズンは色々なことに悩み葛藤した1年でした。そんな僕のことをずっと見てきてくださった皆さんに悩みを聞いていただき、アドバイスをいただいたことが僕の支えになりました。本当にありがとうございました。

2年連続でグランドチャンピオンシップでの優勝を逃したので、3度目の正直！来シーズンは年間チャンピオンと、グランドチャンピオンシップ優勝の両方を制覇できるように、またLarkに不甲斐ない投げ手で嫌われないように頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。



SERIESCHAMPION

2018年度 レディース年間チャンピオン

迫田さやか & Ratnaraj

Ratnaraj と公式デビューした今シーズン。頼もしいパートナーに成長してくれて本当にありがとう！そして、新人賞もいただく事ができ本当に嬉しかったです。

投げ方で悩んでいると練習する手を止めてアドバイスしていただいたり、いつもプレーの時には後ろに立って「大丈夫！落ち着け！」と声をかけてくださったり、「応援してるで！」と言ってくくださった方々、初めて参戦する会場で親切にいただいたり…。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして何よりも、いつもサポートしてくれ、どんなに遠い場所への遠征でも運転してくれたお姉様。何かあればすぐに飛んで来て側にいて励ましてくれ、プライベートな悩み、プレーの流れ、投げ練にも付き合ってもらい、いつも支えてくれた北川先生、いっちゃん。感謝してももしきれません！本当に本当にありがとうございました。

2019年も、宜しくお願い致します。



SERIESCHAMPION

2018年度 スモールドッグ年間チャンピオン

佐藤一弥 & ライリー

シーズン2018、スタッフの皆様、選手の皆様大変お疲れ様でした。正直私自身も事故無く病なく無事に終えることが出来た事が一番ホッとしています。

ライリーとディスクを始めて早くも3年が経ちました。昨年は、一向に上達しないスローを棚に上げ、我チームが離れたたり近づいたりと揺れたシーズンでもありました。しかし今思えば捕れないディスクしか投げれない私が悪かったのですが、その時は捕って欲しいと思うばかりでした。

二年連続年間チャンピオン。これはやっぱりライリーが頑張ってくれた事でとれた勲章です。雪降る寒い日、爆風の風の中、大嫌いな雨や水たまり、倒れそうに暑い真夏の酷暑日…。ライリーは嫌なそぶりも見せず、文句も言わず、頑張って、走って、ディスクを追っかけてくれました。本当に感謝です。ゆっくり休ませてあげられないけど今年もまた元気に走って暴れてくれることを望む一年です。





2018年度 グランドチャンピオン 一柳浩一 & デトネ



JFA デビューした 2000 年の頃はロングディスタンスに夢中でした。

2003 年にロングディスタンス日本記録 93m を樹立。2006 年にロングディスタンス競技が無くなったので、5 年連続で年間チャンピオンだった我家のファーストキャリアも終了。

2013 年に「くろべえ」を保護したのがセカンドキャリアの始まりでした。しかし MIX 犬が頑張ってもボーダーには勝てず、僕の負けじ魂に火が付きます。

2016 年にデトネを迎えますが、初のボーダーなので戸惑ってばかり。お里の間さんから「成長がゆっくりなので焦らないで」との言葉も半信半疑でした。

しかし、その言葉通り地道な努力で才能が開花。昨季のファイナルではユース優勝、グラチャン 3 位、そして今季は 10×5 を 3 回達成、1 ゲーム日本記録も樹立したりと個人賞を総ナメ、締め括りのファイナルではグラチャン優勝と最高のシーズンでした。

最後に、いつもの確なアドバイスを下さる間さん、そして偉大な曾祖母のグラスに感謝します。



2018年度 スモールドッグチャンピオン

川口 輝 & JAKE



JFAデビュー当時、投げるディスクは場外へ、愛犬はスタートと同時に脱走、白線もぐもぐタイムで終わりと惨たんだものでした。そんな私にディスクの持ち方からご指導いただいた、大先輩が昨年の開幕前に引退されると聞き、「ファイナルに出て恩返をしよう」と決意。

5 月に奈良橿原へ遠征しランキング上位陣のプレーを目の当たりにして刺激を受け練習に励むも、上達するどころかランプに陥る始末。不調のトンネルを抜けないまま J A K E の才能で、出場権を獲得しました。

決戦の日、出雲大社に立寄り必勝祈願をしたのが功を奏したのか、2 R 目に肉離れを起こすも、なんと予選トップ通過。痛めた足を大会で知り合った皆様にケアして頂き、決勝コートに立つと、チーム九州の応援が力となるのを実感しました。JAKEも快進撃でキャッチを決め、初出場初優勝に輝くことができました。すべては支えて下さった皆様のおかげです、心より感謝しています。



2018年度 フリーフライトD-1MAX チャンピオン

澤 幹子 & ZORRA



皆様 2018 年お疲れ様でした。

2003 年より犬とのフリスビーを始めて 15 年になりました。

ZORRAと二年目のフリー、妹のNELAは今年初めてのジャンプファイナルでした。AILA と SID の子供である二頭ですが、全くキャッチのタイミング等の癖が違い、特に NELA とは形になるまでかなり時間が掛かった様に思います。

ファイナル当日は天気もよく、風も思う程は吹いていませんでした。緊張していたせいで思った構成では出来なかった事が悔やまれます。

山田会長始めスタッフの皆さまいつも有難うございます。

そして私の趣味に付き合ってくれて、待っている犬達本当にありがとう。これからも努力し、皆さんに楽しんで見て頂けるような演技が出来ればと思います。

最後になりましたが本年の災害により被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。



2018年度ユースオールカマー個人戦チャンピオン

河野和則 & SAM

縁があって昨年の春に生後 47 日目で家族となった SAM。先住犬の黒ラブ 2 頭に可愛いがられ、すくすくと成長しボールやディスク遊びの楽しさを伝授されました。

今季、生後 8 ヶ月で大会デビューした SAM は、日々成長と共に上達し順調に結果を残しました。後期ぐらいから進化する SAM に僕のスキルが足りず苦戦し、改めてチーム力の大切さを痛感しました。

残念ながら狙っていた年間ランキング 1 位は逃しましたが、最終の日本一決定戦では幸運と SAM と仲間に助けられ勝利することが出来ました。

支え応援して頂いた多くの皆様、ありがとうございます。特に SAM の上達の基盤となった JFA クラブ和歌山練習会の皆様、「絶対に SAM を優勝させて」と常にハイプレッシャーを与えてくれた、親元の小西ロック・リー家には感謝しています。また、チーム鬼嫁で優勝した事を天国の孝光さんに自慢したいと思います。



2018年度ユースオールカマー団体戦チャンピオン
チーム第5リーグ

代表 山下佳秀 & 三男坊リボン

皆様、JAPAN FINAL 2018お疲れ様でした。

昨年に引き続き、今年もJAPAN FINALに出場させて頂いたこと、とても光栄に思っています。今年は団体戦優勝という嬉しい体験までさせて頂き、本当にありがとうございました。

リボンは元は結婚前の妻の愛犬で、先代ポインター亡き後に迎えられたことから『生まれ変わり』という意味の“ReBorn”と名付けられているのですが、当初は僕にあまり懐いていなかったリボンでしたが、ディスク競技を通してリボンとの絆を深めることができたことが、なによりも感慨深いです。

いずれは、今は幼い娘もディスクを始めるのかなと思いを馳せたりの今日この頃です。

まだまだ未熟な僕とリボンですから、これからも先輩方からたくさん学びながら頑張っていきたいと思っています。新シーズンも何卒よろしくお願いします。



2018年度 シニアドッグの部チャンピオン

片岡裕貴 & HIRO

フリスビー歴 18 年、ヒロは私にとって 3 代目となる犬です。真面目で能力も高いのですが、感情が昂ぶりやすくやたら跳ぶので、5 分の 1 キャッチなどというラウンドもざら、私はといえば超チキンで大舞台になればなるほど、持ち前の？勝負弱さを発揮するという有様…。

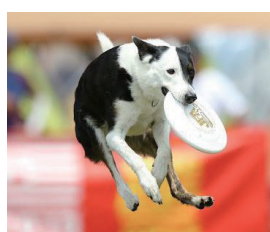
そんな私達が、シニアの部とはいえ日本一になれるとは！今まで運転した数万kmが、やっとここで報われた気がします。

思えばたくさんの方々に支えられ、力添えをいただきました。まずは会場で、私達を応援して下さいました皆様、いつも私を盛り立ててくれる愉快的仲間達に、ありがとう！

そして、犬作りや人の在り方、その他諸々を指導して下さいました村上弘氏へ、この場をお借りして、あらためてお礼申し上げます。

犬の管理全般を担当してくれる嫁にも、後で叱られないように、ここに感謝の意を記しておこう。

最後に、私を最高に楽しませてくれる相棒ヒロへ、本当にありがとう！



2018年度 ペアの部チャンピオン

松野下裕子・岡山伸一 & Emma

今回のジャパンファイナルは、緊張と不安でいっぱいでした。

九州大会では、人間のミス、Emma のミスなどで思い通りのプレイが出来ず、パーフェクトプレイがなかなか出来ませんでした。

ファイナルではとにかく Emma を信じよう！ペアの裕子ちゃんを信じようと、思いプレイした所 1R 42 ポイントでパーフェクトゲーム！見事に決勝進出！

決勝は…これも 42P でパーフェクトゲームそして優勝いたしました。

Emma も良く頑張ってアシストしてくれました。初めての表彰台もとても嬉しかった！

応援してくれた皆様ありがとうございました。木下誠さん J×J の娘がペアの部で日本一取ったよ！空の上からちゃんと見てたかな？



Photo Gallery

JAPAN FINAL 2018

